

霊水と共に

発行 法華寺
No.24
2024.1
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

令和五年を振り返り

住職就任以来、及ばずながら、心がけてきたことは、「檀信徒の皆様とお寺とのつながり」です。お寺との付き合いが負担にならず、「お寺があつて良かった」と思っていただけのように願っております。しかしながら、「お掃除の会」など、様々な場面で、皆様に支えていただいていること、深く感謝しております。

私も含め、僧侶は、日々「人のために何ができるのか？」自問自答しておりますが、その役目に加えて、原点である「神仏との付き合い方」や「死者供養のあり方」について考えることも、大切だと思っております。そのためには、一步一步、精進するしかありません。

令和に入り、社会は激動の時代を迎えています。「モノやお金、肩書」よりも「工夫」「安らぎ」、「助け合い」が求められているのではないのでしょうか？

修復が進んでいます

當山の「番神堂」では、室町時代以来の『神仏習合』が伝わっております。明治初期、全国で神仏像の破壊があつたのですが、法華寺は村人の信仰篤く、江戸期のご尊像が遺されています。

ご周知のとおり、三十体の番神像、十一体の鬼子母神・十羅刹女像も、修復が終わり驚くほど美しいお姿となっております。檀信徒の皆様にお慈悲と守護をお授けくださいますよう。毎朝の読経に勤めております。



修復を終え、よみがえったご尊像です。

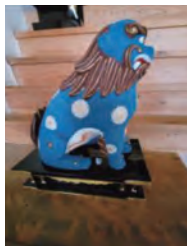


新たな修復が始まりました

『てらうど(寺人)ファンディング』と称した修復事業には、たくさんの方々のご協力を得ることができ、予想以上の結果となりました。改めて、心より御礼申しあげます。

その後ですが、「亡くなられたご主人様の供養」、「亡父の供養」にと相次いで、個別のご寄付のお申し出をいただき、そのお二人方のご意志により、胴割れ、色彩剥離があつた『三光天子』様、『隨身』『狛犬』のご尊像の修復も進めることになりました。その内『隨身』と『狛犬』像は、現在、修復を終え、番神堂に安置され、素晴らしいお姿になり、改めて、悪霊魔物から當山をお守りいただいております。

ご縁により、番神堂全体が、江戸当初の輝きを取り戻しております。修復中の三光天子様のご開帳は、令和六年の開山忌を予定しております。



修復前の狛犬様(上)とよみがえったお姿(下)です。